

## 赤岳 文三郎尾根からピストン

2018年4月21日(土)～22日(日)

やまたくお 【リーダー】、宮本、 ハンブルクの星 (文)

4月末の残雪期に行者小屋から文三郎尾根ルートで赤岳に登った。美濃戸高原口から美濃戸登山口までは4輪駆動車でないと進めないくらいの悪路を進む。9:30頃に赤岳山荘の駐車場に到着。既に20台くらいは駐車してほぼ満車状態。登山口での気温は既に20度以上あるのか、とても残雪期とは思えないくらい気温が高く日差しも強かった。

登山口を10時に出発。美濃戸から行者小屋までは夏道なら2時間半のコースだが想定以上に暑いのでスローペースで、南沢ルートで向かう。ルート上は雪もなく、1時間ぐらい進んでからやっと所々雪が出て来て、行者小屋手前30分くらいからは時折ズボッと膝まで沈む箇所もあった。



行者小屋には14時ごろに到着。周囲には赤岳、阿弥陀岳や硫黄岳などが良く見えた。青空に冠雪の山頂とのコントラストがくっきりと素晴らしい。テントは既に5～6張くらい張られていた。15時ごろにテントを張って暫くすると労山のメンバーOさんとSさんが丁度下山してきて遭遇。暫く談笑する。彼女たちは今朝美濃戸を5:30に出発して硫黄、横岳を経て赤岳を登頂して下山してきたとのこと、さすが健脚だ。15時半ごろに彼女たちは登山口に向かって出発。

少し早いですが16時ごろにビールで乾杯！テント内はまだ暑かったが入り口をオープンにしたら雪上なので涼風も感じられてしのぎやすかった。夕食後19時ごろに就寝。寝ていて途

中寒くなってきたのでアウターダウンのジャケットを着て寝た。



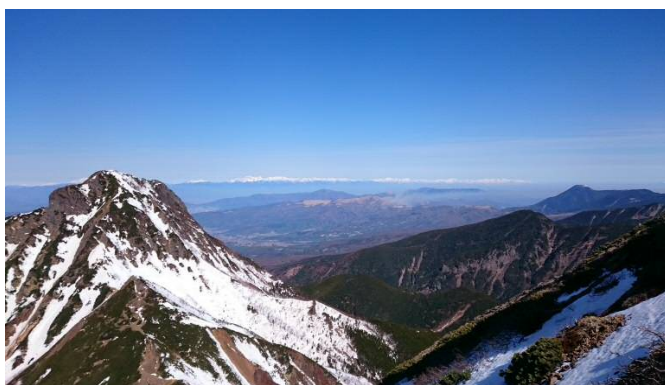
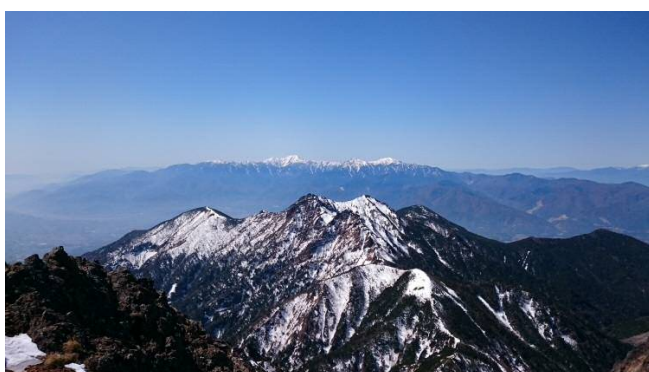
翌朝は午前 4 時に起床。朝食後、シュラフなどの不要なものをテントにデポして 6 時半に出発。アイゼン、ハーネス、ヘルメットを装着。テント場から阿弥陀岳分岐までは 15 分くらいでこの後、樹林帯を過ぎてから文三郎尾根に取り付く。傾斜はややきつく、急登だ。



文三郎尾根を過ぎた分岐点から 50m位のトラバースがあり、ここでもし滑落したら 200 mぐらいは落ちてしまうかと思い、慎重に一步ずつ歩を進めた。特に自分のアイゼンで引っかけて転倒しないように細心の注意を払って進んだ。トラバースを終えるといよいよ残雪が凍った岩稜帯に差し掛かる。鎖もあったがそれには頼らずにピッケルをベルトに差し

込んで両手をフリーにして岩をよじ登る。

そして9時頃に赤岳山頂に到着。山頂は無風で、快晴の為、360度の大展望。北八ヶ岳の蓼科山から天狗岳、硫黄岳、横岳、阿弥陀岳などの八ヶ岳連峰は勿論、富士山、南アルプス、御嶽山、白山、乗鞍岳、北アルプスなどの山々が全て見渡せる。文字通り素晴らしい天空の大パノラマを得られた。40分ほどゆっくりと山頂の景色を楽しんでから下山開始。



下山では練習を兼ねて所々で鎖にカラビナをかけて下山した。登りより下りの方が転倒や滑落の危険度ははるかに高い。難なく危険な岩稜帯を過ぎて、周囲の展望を楽しみながら長いトラバースも下り、文三郎尾根の急な勾配の箇所も過ぎてテント場に戻る。テント場に戻るとテントはわれわれのものだけだった。

1 時間ほどかけてテントを撤収して。12 時半ごろに再びフル装備で下山開始。昨日は往路で 4 時間かかったが下山は約 2 時間半で 15 時ごろに美濃戸登山口駐車場に帰着した。天候に恵まれ、抜群の展望を楽しめた、5 月の連休の登山に向けていいトレーニングになった。

4 月 21 日（土） 晴れ

9 : 30 美濃戸登山口到着 10 : 00 同、登山口出発 14 : 00 行者小屋テント場到着

4 月 22 日（日） 晴れ

6 : 30 テント場出発 7 : 30 文三郎分岐 9 : 10~9 : 50 赤岳山頂

11 : 30 テント場に戻る 12 : 30 テント場出発&下山開始 15 : 00 美濃戸登山口に戻る

文責 : ハンブルクの星